

自己評価 【 評価日 : 平成26年3月18日 評価者・組織(名称) : 学校評議委員会 】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	コミュニケーション能力の育成 わかる授業の創造と改善	生徒による学習アンケート調査 教職員・生徒アンケートの意識分析	*コミュニケーション能力については、国語の学習、総合的な学習、特活の時間などを通じ、ありとあらゆる場で育成しているが効果が少しづつではあるがあらわれつつある。	*コミュニケーション能力の更なる向上に向け、あらゆる場で理論立てた話が出来るよう取組をさらに充実させる。
	総合的な学習の時間の充実	地域の教育資源の活用状況	*家庭学習の習慣化については教職員・保護者とともに実現度が低く、十分に定着しているとは言えないが意識は出てきた。	*家庭学習については、小中連携して、小学校のやり方をうまく継承し、中学校では「家庭学習の手引き」を個別懇談会等で活用し、家庭への働きかけを積極的に行う。また、宿題の出し方・量についても各教科横の連携を密にし、見直していきたい。「学習クラブ」、「そろ
	家庭学習の習慣化	教職員・保護者・生徒アンケート	*総合的な学習の時間を利用して、小中連携した「そろばん学習」(中学卒業までに3級を目指す)の取組を現在も模索中。	
2 豊かな心	豊かな体験活動の実践	生徒アンケートによる意識調査	*校外学習、修学旅行、生き方チャレンジに体験活動の内容を組み入れ、取り組んだ結果、多くがその成果を実感したとの前期を上回る回答を得た。	*体験活動で感じたことを、自らの言葉で表現する場を更に充実させていく。
	望ましい言葉づかいの徹底	教職員・保護者・児童アンケート		*言葉づかいについては、「梅津の志」に基づいた「いい言葉の日」1.15を立ち上げ、家庭・地域とも連携し取組を地域全体に広めていく。→小学校、地域を巻きこみ取組の拡大を実施中。5年間で地域にのぼり100本計画。
	豊かな心の育成	道徳教育全体計画の実施状況	*豊かな心から発せられる言葉づかいについては、生徒・保護者アンケートにおいて重要度が高く実現度が低いという結果だったが、今年は随分様子が変わってきた。 【特に1年生】	
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	朝食の摂取率、寝る時間起きる時間調査	*朝食の摂取率については、学年が上がるに従って下がっていることが分かった。各家庭への発信をあらゆる場で行えたことは良かった。	*朝食の摂取と睡眠時間の確保の重要性について、保護者への発信を引き続き充実させていく。保健室だけでなく、学級通信等でも積極的にトピックとして取り上げていく。
	体力の向上	新体力テストの分析	*寝る時間は例年同様、高学年になると12時を過ぎる生徒が多いのが気になるが、改善されつつある。 *2年生の新体力テストでは男女とも各項目全国平均。	*新体力テストの結果を念頭に置き、日々の授業の中でさらなる基礎体力の向上を図っていく。→継続
4 学校独自の取組	小中一貫教育の推進	小中合同研修会・講演会の実施	*食育・服育については、専門家とも連携し、学校での学びを家庭での生活に活かす取組を進めている。朝食の摂取率では朝食食べない生徒は30%、その理由は時間がない、食欲がない一部に「食べるものが用意していない」があるのが驚きである。→大きな変化無し。	*小中合同研修会の充実と共通目標達成に向けた共通の取組(シンプルで継続が可能なもの)を今年度現在の取組にもう一つ付け加えるべく検討中)→継続
	食育・服育の推進	地域人材の活用状況	*HPは、積極的に更新しているが、閲覧状況が行事のあった直後が非常に高い。一後期も同様。	*朝読書の充実を3小中学校あげて取り組む事を確認、実施している。→継続
	情報発信の充実	学校HPの更新状況	*生徒の決意「梅津の志」を中心に据えた、「トークイン梅津」(全校生徒の前で、言葉を駆使し、自分の考えや思いを言う機会を設定)では、言葉を大切にし、会話する力を育成してきた。わずかではあるがステキな言葉が増え、汚い言葉が減ってきている。一のよりの作成など、効果が出てきている。	*食育・服育については、学校評議委員会との連携を一層強化し、地域ぐるみで食・服育についての意識を高め、成果の発信の充実を図る。結果を受け、保護者との信頼関係を更に深め、朝食を用意するよう理解と協力を求める。→継続
	自尊心の育成	全国調査の結果・生徒アンケートの分析と、自他を賞賛し褒める場面の	*HPは、内容の充実を図るとともに、PTA運営委員を中心には中身や配信していることを保護者・地域に広めてもらう。→継続	
	全校道徳の充実 いい言葉の日の定着	トークイン梅津の実施 毎月15日、毎朝の呼びかけと放課後進捲状況チェック【一言感想文】	*自尊心を育成するために自他を褒め、常に他人の努力には「拍手を送る」、「相手の欠点を攻撃しない」ことを徹底した結果、自分に自信がない生徒率が少し減少しつつある。更に、「世界につつだけの花」、「サンキューカー	*特に本校校區の小中学校では「自分に自信がない」、「自尊感情に欠ける」結果が顕著であり、小中連携してその克服に当たっている。→次年度入学する1年生の傾向が大きく変わることを受け、対応を検討

関係者評価 【 評価日 : 平成26年3月20日 評価者・組織 : 学校運営協議会、学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
<p>*生徒指導上は、以前に比べると、学校は随分良くなっている。しかし、まだまだ地域に迷惑をかける場面も減ったとは言うものの未だある。教職員が熱心に取り組んでいる姿は伺える。</p> <p>*23年度から始まった体育大会での組み体操やダンスなど、新しい取組も続けてほしい。</p> <p>*朝食の摂取率については、家庭と連携するなど、生徒の日常の様子に気をかけるとともに、保護者へのより一層の働きかけが望まれる。食育・服育については、まだ家庭での関心が薄いように見える。その必要性や、見だしなみ(エチケットやマナー)については家庭の協力をもっと訴えるべきである。</p> <p>*学校評議委員会も出来る限りの協力を惜しまない。今後は学校とともに取組を総括し、一緒になって更なる学校の発展・充実に向けて取り組んで行ってほしい。</p>	<p>*授業改善に向けて、保護者や地域による授業支援が必要であれば、学校評議委員会としても人材確保に協力する。</p> <p>*食育・服育については、PTA運営委員会とも連携し、活動をさらに充実させていく、地域全体の食育・服育に対する関心を高めていく。</p>

総括・次年度の課題

確かな学力をつける取組については、教職員は自己改革、授業改革に本格的に取り組み始めた。しかしながら、一部の教科を除き2、3年生は結果として入学時お状況よりは力がついたとは言うものの、まだまだ厳しい状況にある。しかし、教職員の諦めないと云う強い信念の元、粘り強く指導してきた結果、今回の3年生の入試では予想を上回る非常に良好な結果に終わった。今後は、学力向上に向けた取組を大きく方向転換し、小中連携して9年間を見通した新たな取組に向け、中学校がリーダーシップをとり、効果が上がる取組を展開していく計画である。とりわけ、効果の上がる取組とは、小小連携、小中連携に於いて、一人の共通のリーダーを置き、そのリーダーを中心となり、学習指導、生徒指導について、3校のチーフ主任と連携して、中学校が主体となり、小学校に入り込み、協力して学習指導、生徒指導に当たる。中学校のいいところをどんどん小学校に定着させ、中学校に入ってきたときには、基本的な習慣(学習、生活両面)がある程度出来ている状況を作れるまで、小学校と協力しながら取組を進めたいと考えている。そして、今の小一が、中学校に入学することを想定して、中学校も9年間を見通した梅津地域の生徒・児童の育成を図りたい。さらに、従来から本校が目指している、学年が上がるに従い良き成長が見られる学校づくりに邁進したい。「梅津の志」や「いい言葉の日」の取組も中学校に入学する頃には当然のこととして理解し、受け止められるようにしていきたい。